



187号

2013/ 10 /1

日中文化交流市民サークル「わんりい」

東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方

〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100

<http://wanli-san.com/>

Eメール:[wanli@jcom.home.ne.jp](mailto:wanli@jcom.home.ne.jp)

◆「わんりい」HPのアドレスが上記になりました。



「丹巴の風情節」 四川省丹巴县甲居にて、2009年10月26日撮影  
中国で一番美しい村といわれる、四川省丹巴(カンゼ・チベット族自治州)で毎年10月末に開催される「風情節」の中央会場は丹巴の町にあり、この甲居の他に巴底、中路、梭坡、布科等の集落に分会場があります。この風情節を見物に来た観光客やカメラマンは連日各地の会場に出掛けてギャロンの民族舞踊等を含む風俗文化を堪能しています。  
(四姑娘山自然保護区管理局特別顧問 大川 健三)

(10月号の目次は、最終ページに掲載してあります)

時々、読売新聞に掲載される世界各地の特派員レポートのスクラップを見せていただく機会がありますが、先日は北京の特派員が床屋さんのことを書いておられました。「北京の物価はどんどん高くなっているが、床屋さんの料金は余り変わらず、10円で散髪がして貰える」と言う報告でした。

その報告を見て、私もよく利用した床屋さんのことを思い出しました。2002、3年頃、北京の床屋さんの料金は4元ほどでした。私がよく行った床屋さんは、小さな店で、壁に四つの鏡をはめ込んで、その前にそれぞれ高さを調節できる椅子が置いてありますが、リクライニングではありませんでした。この外、片隅に洗髪台が一台ありましたが、手狭で、お世辞にも綺麗とは言えないところでした。

初めてこの床屋さんに行って驚いたのは、洗髪の時、洗髪台には行かないで、鏡の前の椅子に座ったまま、シャンプー液を振りかけられたことでした。頭に直接水を少しずつ加えながら、頭の上でシャンプー液を泡立てます。充分泡立った所で一旦泡をこそげ取り、頭皮のマッサージをします。このマッサージはなかなか気持ちが良いものでしたが、これは頭皮の洗浄なのです。その後もう一度シャンプー液を加えて、もう一度泡立てます。頭の上に真っ白い泡がもこもこ立っているところは、綿帽子をかぶった様で、初めての時は思わず見とれてしまいました。このようにして10分近くシャンプーをしてから、やっと洗髪台へ導かれます。

シャンプー台はリクライニングになっていて、完全に平らにはならないけれど、170度位までねかすことが出来て、洗面台でお湯を使ってシャンプーの泡を流してもらいます。髪は既にしっかり洗ってあるので、此処では泡を流すだけですぐ終わりますが、私はやっとシャンプーをして貰ったと実感したものです。終わるとタオルを巻いて元の席に戻り、カットをして貰います。この洗い方を、北京の人達は「干洗(乾洗 gānxǐ=カンシー)」と言っていました。このお話を書くにあたって、辞書を調べましたが、「乾洗」には「ドライクリーニングの意味」としか出ていませんでしたが、「乾」のところで「水を使わないやり方」という項がありましたから、北京の人々はこの意味で「乾洗」と言い習わしているのだろうと、勝手に想像しています。

床屋さんと言っても、日本の美容院と同じようにか

みそりは使いません。もみ上げや襟足をバリカンで整えて終わりになります。男性のお客さんにも髭剃りはしていませんでした。カットの後、頼んでおくと「按摩(ànmó=アンモ)」と言って、マッサージをして貰えます。

先程髪を洗う段階でも頭のマッサージがありましたが、今度は本格的に頭皮のマッサージをします。頭から首筋、肩、肩甲骨の周り、更には鏡の前の台に腕を組んで頭を乗せて前屈みになり、腰の上の背中全体をしっかりと揉んだり叩いたりしてコリを解します。最後に両方の腕を指先までマッサージして終わります。洗髪・カット・按摩は、その時の理容師さんの手順や、洗髪台の空具合によって順番が異なる時もありますが、私は最後に按摩をして貰うのが一番好きでした。思わず居眠りが出るほど気持ちの良いものでした。全工程1時間足らずですが、これで4元、按摩を頼まないと、1元くらい安くなるようでした。

2005、6年になると、王府井や前門・新街口など繁華街に、地域の改造に合わせて前面が縦ガラス張りでモダンな美容院が出現しました。入ったことは無いのですが、聴くところによると、料金は60元以上、高い所は100元近くだそうで、お客さんがあるのだろうか心配したのですが、そんな心配をよそに、高級美容室はどんどん増えていきました。繁華街ばかりでなく、私の家の近くの小路にも小洒落た美容室が3軒も出来ました。その料金は50元程でした。中国経済の発展に伴って、おしゃれに100元近いお金を支払っても気にならない人たちが多くなったのでしょう。

この頃から、繁華街に新設されるお店は、業種を問わずモダンで綺麗になり、庶民の生活とかけ離れていくような感じがありました。庶民の収入は未だ上がらないのに、それらのお店で売られるものは、日本の高級品と遜色無いような値段でした。高収入の人達はともかく、一般庶民は暮らし難くなるだろうと、他人事ながら心配したものでした。

前述の床屋さんクラスは、最後に行った時、その料金は7元でしたが、今回の特派員の報告で、まだ10円で頑張っていることが分かり、物価が高くなったとボヤキながらも、昔ながらの生活を続ける人々の安堵が感じられて、嬉しくなりました。

私の調べた諺・慣用句 23  
精衛海を填む

三澤  
統

毎号掲載の“私の調べたシリーズ”も回を重ねて四字熟語とあわせ70話を超えました。これまでは日本と中国とで同じ意義を持つ諺・慣用句を調べてきましたが、そろそろ種切れとなってきました。そこで多少目先を変え、同じ表現の諺・慣用句でも、日本と中国では解釈や使われ方の異なるものにも目を向けて取り上げてゆくことと致しました。そのような観点から今回取り上げましたのが「精衛海を填む」です。

辞書にはそれぞれ次のように載っています。

▲小学館 デジタル大辞典：

「精衛(せいゑい)海を填む 《山海経(せんがいきょう<sup>注</sup>)・北山より》できもしないことを計画して力を尽し、むだな骨折りになることのたとえ」

▲小学館 中日辞典：

「精卫填海 jīng wèi tián hǎi 精衛海を填む。必ずかたきを討つこと：困難にめげず努力奮闘することのたとえ」

これを見ますと、日本と中国では たとえ が異なっていますが、出典のエピソードは同じです。

この成語の出自は〈山海経・北山経〉の

「有鳥焉其状如鸟，文首，白喙，赤足，名曰精卫……常衔西山之木石，以堙东海(カラスのような姿をした鳥が居り、優雅な首、白いくちばし、赤い脚を持ち、名を精衛と言う…… いつも西山の木や石をくわえて来て、東海を埋めようとした)」

伝説の時代、発鳴山の上には沢山の桑の木がありました。木の上にはいつも一羽の可愛い鳥が来ていました。その鳥の姿はカラスに似ていて、頭の上にきれいな模様があり、くちばしは白く、赤い脚をしていました。鳴き声は “ジンウェイ ジンウェイ(精衛 精衛)” というように聞こえたので人々はその鳥を“精衛”と呼んでいました。

実は精衛鳥はもともとは炎帝(即ち神農氏、伝説では中国の農業と医薬の祖といわれる)の娘で、名を“女娃”といました。

彼女は泳ぐことが大変好きで、その日も東海で

泳いでいましたが不運にも突然大波が来て、容赦なく海に呑み込まれ溺れ死んでしまいました。女娃は後に精衛鳥に生まれ変わりました。

そして、他の人が自分のように溺れ死んでしまわないように、海を埋めて平らにする必要があると、心に固く決心をしました。そこで精衛鳥は朝から晩まで、毎日西山から木の枝や小石を口にくわえて、東海の上空まで飛んで来て、それらを海に投下し続けました。

こうして、一日又一日、一月又一月、一年又一年、、、、来る日も来る日もこの作業を続けました。



この物語は、古代の人類と大自然との苦難に満ちた闘争を反映しています。

当時の人々は大自然に対抗する術を何も持たなかったため、大海はなにかあれば人々の命や財産を呑み込んでいました。その為人々の心の奥には大海を埋めてしまいたいとの願望が強く生じていたのです。

精衛鳥は人々の大海を治めて安全なものにしたという決意の象徴だったのですね。

〈注記〉

山海経(せんがいきょう)：中国の地理書。中国古代の戦国時代から秦朝・漢代にかけて徐々に付加執筆されて成立したものと考えられており、最古の地理書(地誌)とされる。  
(ウィキペディアより)



イラスト Ye Ling

**【前号のお話】** 唐の貞元（紀元 785～805）時代、淳于棼<sup>じゆんうふん</sup>という人が酔い潰れ庭の大きな槐<sup>えんじゆ</sup>の木の下で眠っていると、槐安国の国王から迎えが来て、国王から国王の次女と結婚することになっていると告げられる。

翌朝はやばやと、淳が宿泊した東華館は人が出入りする賑やかな物音が響いていました。その内多数の使用人達が慌ただしい様子で淳の休んでいた部屋に来ると淳を起こして鏡の前へ連れて行き、華麗な衣服を、一枚又一枚と淳に羽織らせ、礼帽を被らせ、素晴らしい玉を身に付け、そして、ピカピカ光る宝剣までも腰に付けると鏡に映る淳は自分自身でさえ見間違ふほど威風堂々とした姿でした。

準備がそろそろ完了する頃、侍従が呼びにきました。

「お婿様の介添え人が参りました！」

淳が頭を上げて声のする方を見ると、着飾った三人の男がこちらに向かってやって来ました。淳の前に来ると、深々とお辞儀をしながら

「今日はお婿様のお供を致します。なんなりとご用をお言い付けて下さいませ」

淳が三人をよくよく見ると、なんと3人の中にかつていつも一緒にお酒を飲んでいた顔見知りの一人、田さんがいるではありませんか！

「おお、田さんではないか？ どうしてここにいるかい？ なんで私などは知らないという顔をしているのか？」

「いや、淳さんがいきなり偉くなってしまったもので、おれのことなどは忘れたかかも知れないと思ってね・・・」

「何をいうんだ。田さんの事を忘れてはしないよ！ ところでどうして槐安国にいるのか？」

「やあ、実は淳君がいなくなってから、私もあちこちを転々としていたのだが、幸い槐安国の右丞相のめがねにかなって、この国で小さな役を頂いてね。昔よく一緒に酒を飲んでいた周君を憶えていないか？ 彼も槐安国にいるよ！ 彼はこの国の巡査長官になって、今はとても権勢のある人物になっているんだ！ 私はよく世話になっている」

と田は興奮した様子でいろいろ教えてくれました。

「おお、本当か？ それはいいじゃないか。またいつか皆で一緒に酒を飲もう」

昔の酒友を見つけることができた淳は嬉しくて、今日は結婚の日である事を忘れるほどでしたが、この時侍従がまた淳に告げました。

「お婿様が宮殿にいらっしゃる時刻でございます！」

そこで淳は三人の介添え人を従えて、宮殿へ向かいました。

宮殿の周りは鮮やかな飾りもので飾り立てられ、高貴な人々と思われる客が既にびっしりと詰めかけていました。そして美しい女性達が様々な楽器を手にして、優雅な曲をゆったりと演奏しているのです。

新郎の両側には華麗な衣服で身を包んだ儀仗隊が立ち、灯籠を捧げ持った少女達が新郎を誘導して人々の間を巡りました。淳は来客たちに会釈をしたり挨拶をしたりし、その間にいろいろ格式のある儀式が執り行われました。そして結婚儀式を無事済ませると、淳は幾度となく馬車を乗りかえてどこへともなく連れて行かれました。

「お婿様のお住まいに着きました！」という声が聞こえ、見ると、「修儀宮」と書かれた扁額を掲げた立派な門の前で馬車が止り、門の中には大きな庭が広がっていました。

淳は侍従の案内で、庭を一回り見て回りました。その庭には手の込んだ亭や、築山、池がしつらえてあり、樹木や草花なども整然と植えられて、見るからに居心地の良さそうに思えました。

暫くするうちに客の騒ぎ声は段々遠ざかって行き、提灯の灯も一つずつ消えて、庭が静かになると、侍女が淳のもとにやって来、「王女さまのところへご案内致します」と告げました。淳がわくわくする気持ちを抱えて侍女の後について行きますと、侍女は何か香しい香りの漂う部屋に入って行きました。

「王女さまは長くお待ちになっていらっしゃいました。奥へどうぞお入りくださいませ」

侍女の言葉に促されて淳が奥へ進んで行きますと、そこは寝室のような部屋で紅い絹を被った女性がベッドに座っていました。淳はゆっくり前へ行き、息を押しとどめてそっと紅い絹を揚げて見ると、なんと！まあ、まるで仙女のような美しい少女でした。淳はうっとりして、今、自分は仙界にいるのではないかと感じました。

その日から、淳は国王の一族となり、服装から、食べ物、乗り物などすべて、槐安国の国王とほとんど変わらない生活で、国王からも非常に親切に遇され、幸せな貴族生活が始まりました。

また国王はしばしば淳を連れては西の靈龜山という山へ狩猟に行きました。そのあたりは四方を姿の美しい山々、峰々に囲まれ、清らかな川が流れ、樹木が青々と茂り、まるで仙界かと思われるような美しいところです。様々な種類の動物も沢山いて、狩猟の獲物はいつも豊かでした。そんな日々を続けていたある日、淳は思い切って、長い間に不思議に思っていた事を王様に訊きました。

「お目に掛かりました最初の日に、国王様は、私の父親がこの度の婚約を了承したとおっしゃいました。ということは、国王さまは私の父と会われたことがあるのかと存じます。しかし、私が知る父は、兵隊を統率して辺関で戦っていましたが18年前、戦いに負けて、敵に陥いられたと聞いて

ています。その後今日までの18年間、全ての消息を絶ったままになっています。国王様が父をご存知でしたら、その後の父の様子を教えてくださいると共に、出来れば父に一度会いたいと思っております」

「おお、そなたの父は今北方の国境で国を守る重要な仕事をしているのじゃ。とても忙しい仕事なので会う事は、目下のところ少々難しいと思われるが、まずは手紙を送って見てはどうじゃの」

淳は国王に言われた通り手紙を書き、父親への贈り物を準備して、国王の部下に頼んで北の辺境まで届けて貰いました。何日間後、果たして父親からの手紙が届きました。手紙には、生活や仕事についての話のほか家族達や息子の近況を聞かせて欲しいなどの気持ちが書かれてあり、以前のままの父親を感じるのでした。

そして手紙の最後には

「丁丑年に会えると思うが、それまで元気で頑張っていて欲しい」

と書いてありました。

淳は最後迄読むと、万感の思いが込み上げて溢れる涙がぼろぼろこぼれるままに父親の懐かしい筆跡をずっと見つめるのでした。 (続く)

‘わんりい’は、毎年4月から新年度になりますが、年度間の新入会をいつでも歓迎します。途中入会は、会費の割引があります。お問合せ下さい。

年会費：1500円 入会金なし  
郵便局振替口座：0180-5-134011 ‘わんりい’

入会されると

- ①年10回おたよりをお送りします。
- ②‘わんりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100 (事務局)

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わんりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

今年も7月17日から24日にかけて大連に行き友人たち(殆ど中国人)と旧交を温めた。

本来は5月に行く予定にしていた。というのは、大連の5月は美しく輝く時だからである。色とりどりの花が咲く中で5月初めには柳絮が人々に絡み合うように飛び交う。吹き溜まりに綿菓子のように丸まった柳絮にライターで火を付けている人もいる。よく燃えるのだ。こうした光景を見飽きている中国人には目や口に入るので鬱陶しいらしいが、漢詩にも多く詠われたこの光景が私は好きなのである。下旬には大連名物のアカシアの花が咲き乱れ、街をほのかな甘い匂いに包み込む。すこし郊外に車を走らせると、白とピンクの百日紅の並木道が美しい。路上には籠に山盛りに積んだサクランボを売る人がそこそこに見られる。日本では高価なサクランボが大連ではたらふく食べられるのだ。

この大好きな5月に訪問しようと計画を練っていたのだが、4月に入るころ上海周辺で鳥インフルエンザが発生し、日を追うごとに感染地域が広がり、この時期に中国に旅行したいと言える雰囲気ではなくなっていった。大連は上海から遠く離れているから問題ないと言っても、「感染した人が大連に遊びに来ることだってあるでしょう」と言う言葉に押し切られ、旅行を延期せざるを得なくなった。あれやこれやで結局7月下旬に行くことになったのである。そのころ日本は猛暑に襲われていた時期なので大連で避暑も悪くはないな、と思うことにした。昨年は8月中旬に行ったので1年ぶりの訪問である。NH903便(ANA)はほぼ予定時刻通り現地時間の12時15分ころ無事着陸した。いつもは霧がかかったような天候なのにこの日は珍しく下界がはっきりと見え、私を歓迎してくれているように思った。

さて前置きが長くなったが今号は哈爾濱市の訪問記である。8日間の中で2泊3日の小旅行をしたのである。ハルピンに行くのは今回が3回目である。初めて行ったのは2005年である。この年は新潟支店に勤務していた時で、同じ経済グループの会社の人達と10人のツアーを組み大連にある子会社

見学を大義名分として、新潟空港からハルピンに行きそこで乗り換えて大連に向かった。新潟空港から大連への直行便がないためである。大連に行ったのもこの時が初めてであった。余談になるが2年後の2007年に大連に赴任することになるとは夢にも思わなかった。これも何かの縁であるのだろう。ハルピンは中継地なので後述する「中央大街」だけの観光に終わったが、このロシアの色彩を帯びた都市を少しでも見られたのはうれしかった。2度目は2009年で大連勤務中に友人が訪問してくれ、4～5人で東北の各都市をまわった。しかしハルピンは1日だけの滞在のため思うようには行動できなかった。したがって今回は友人が案内してくれたのであるが、気ままにゆっくりと見られたのは初めてであった。

ハルピンに行こうと思ったのは、昨年12月に開通した高速鉄道(中国では“高鉄”[ガオティエ]と呼んでいるので、以下“高鉄”と書く)に乗りたいし、のんびりと市内を散策したいと思ったからである。さらに言えばこの猛暑の中、北緯45度45分(日本では北海道の稚内の北の宗谷海峡と同緯度)にあるハルピンはどれだけ凌ぎやすい気候かも実感してみたかったこともある。

高鉄の大連における駅名は、「大連北站」(「站」は駅のこと)である。高鉄は在来線の西側に並行して高架で新たに造られた。したがって駅も線路も電車もすべて新しく気持ちがいい。大連北站は現在の「大連駅」より20キロくらい北に造られている。昨年8月に行ったときは、まだ工事中でとても12月1日に開通するとは思えなかったが、その時から3か月余りで高鉄が走り出しているのだから中国の工事は速い。しかし日本で言えば、完成しても種々の完成検査や車両を何度も走らせて不具合がないかチェックするだろうが、これらは果たして実施されたのであろうか。2011年7月に浙江省で高速鉄道の重大事故が起きたが原因は何か未だに公表されていないと思われる。急いで走らせることによる無理があったのであろう。家内はしきりに「乗っても大丈夫なの」

と心配していたが、「走り始めて8か月経っているから大丈夫だよ」と答えるしかなかった。

ここで高铁の運行の全般について紹介したい。大連からハルピンの距離は約920キロである。東海道・山陽新幹線では東京駅からスタートして広島駅を過ぎて新岩国駅の手前までの距離である。この区間を平均時速300kmで走るのである。新幹線と同様にドアの上にある電光掲示板に速度が表示されるが、最高時速

は308kmであった。一番速い電車は大連北駅と哈爾濱西駅の両駅を3時間30分で結ぶ。途中の停車駅は、瀋陽北駅と長春西駅の二つだけだ。大部分の電車は4時間余りかかる。それでも以前は在来線の特急でも9時間以上はかかっ

たことを思えば随分近くなり、日帰り出張も可能になったということである。

駅は結構たくさんあって聞いたこともないような駅もいくつかあった。大連北駅に表示してある時刻表を見ると、始発は6時25分、その後1時間に1本か2本しか発車しない。従って東海道新幹線のように5分おきに発車し、しかも途中駅で待機している電車を追い越していくようなダイヤではないので運行に要する技術ソフトは簡単であろうと思った。日本の新幹線は、走り始めて約半世紀が経つがよく事故が起きなかったものだと感心する。地震があれば減速したり、自動停車したりする技術は素晴らしく、これほど安心感のある乗り物は他にないのではなかろうか。これだけの高速鉄道がありながら、この狭い日本に、そして人口は減少していく日本に、そして福島であれだけの事故を起こした日本に、電気も資金も莫大に食う「リニア」がなぜ必要なのであろうか。

7月20日8時半ころ大連北駅に着いて切符売り

場に向かった。時刻表を見ると9時18分発の電車があるのでそれを求めると1等車ならあるという。旅行社は当日行けば十分買えると言ったので安心していましたが、予約がかなりあったということであろう。2等車は11時2分までないというので仕方なく11時2分発G311電車の切符を購入した。新幹線と異なり切符を購入するときは、中国人は身分証、外国人はパスポートを見せなければなら

ない。そして切符には中国人は名前が印字され、外国人はパスポート番号が印字されるのだ。従って万が一事故が発生しても日本とは異なり氏名はすぐわかるのだ。浙江省の重大事故も生存者と死亡者の氏名と人数はすぐ把握できたはずと思う。



高速「和諧号」が発着する「大連北駅」構内 写真下方が待合室、その2階には多くの店がずらりと並んでいる。

切符は到着駅で回収されないので記念に持ち帰った。各車両は、全車指定席で一等車と二等車があるのだが、安い2等車から売れていくようだ。というのも大連↔ハルピン間は2等車が403.5元に対し、1等車は708元と飛行機並みの料金なのである。それにしても403.5元という端数のある料金は不思議な数字である。中国人の友人にこの話をすると、彼は「3.5元はおそらく保険料ではないか」と言っていた。キリよく400元と700元にすればいいものを。発車時刻まで2時間余りあるのでゆっくりとこの素晴らしい駅を見て回った。

「等候室」と書かれた待合室はかなり広々として、全体が白と薄いグレーの色調でまとめられている。トイレにも行って見たが、在来線の駅のトイレはもとより空港のそれより清潔そうである。いろいろな店がある2階にエスカレーターで行って見たが、レストラン、各種土産物店、薬屋、などがあつた。その中の「必勝客(ピザハットの中国名)」というレストランに入って朝食代わりに珈琲とピザを注文した

が、味はよく従業員の対応もよかった。10時半になったので発車番線の近くの椅子に移動した。するとまもなく乗客たちが立ち上がって列を作り始めたので私もそれに並んだ。待合室に入るときに切符と荷物のチェックがあったが、出発の番線に下りるときにまた切符を機械に通した。11時2分の電車に乗る乗客が全員通過したかのチェックであろう。

ホームに降りて私は、「和諧号」の7号車16-Bの座席に腰を下ろした。外側はすこし薄汚れていたが白い車体であった。中国の別の高鉄路線の車両と同じである。16番の席はすぐ脇がドアである。つまり横に通路を挟んで5席あり、16列であるから1車両の定員は80人ということだ。G311の電車は8両編成なので定員640人を乗せて走っていることになる。中国を旅するといたるところでタバコの煙に閉口するが、高鉄は全車禁煙なのもよい。ほぼ満席となり、あちこちでトランプが始まる。例のひまわりの種をおしゃべりしながら口に入れたりする人たちもいる。とにかくにぎやかで静かに本をよむ雰囲気ではない。

すると何のアナウンスもない内に静かに電車が動き始めた。「あれっ」と思って時計を見ると、針は10時57分を指していた。私の時計が遅れているのかと思い駅の大きな時計を見ると、やはり10時57分である。定刻5分前である。中国では「定刻」という言葉は馴染まないのかもしれない。以前2～3度このような経験をしたことがあるので驚かなかったが、初めての人は驚くであろう。おそらく切符を機械を通して全員通過したことが分かるので発車したのであろう。善意に解釈すれば“自己責任で行動しなさい”ということかもしれない。日本のように四六時中アナウンスする国は逆に少ないのではと思う。10数年前にパリからユーロスターに乗った時も出発のアナウンスはなく静かに発車したと記憶する。日本人は常にあれこれ注意されないと行動できない民族かもしれない。

女性の乗務員が時折通るが、スチュワーデスのような服装をしてスタイルもいい。新幹線のように検札はないので何の仕事があるのだろうかと思ったりした。車内のアナウンスは駅に到着する5分前くらいに、「(次の駅で降りる人は) 予め準備してくださ



高速「和諧号」 真っ白い車体だが、少々汚れていた。

い。」という言葉了中国語と英語で伝えるだけである。車内販売は、手押し車で通る売り子とアイスクリームだけ売る人がたまに通るだけである。

電車が動き出して市街地を抜けるとすぐ外は緑一色になる。見渡す限りのトウモロコシ畑が延々と続く。時折ポプラの防風林が直線的な美しさで目を楽しませてくれる。地図を見ていただくと分かるように、大連からハルピンまで一部を除きほぼ直線と言っても過言ではない。その間景色は殆ど変化がない。ひたすら北へ北へと走るのである。窓の外をずっと見ていたがトンネルや橋梁は見た記憶がない。後から来る速い電車に追い越されることはない。運転時は駅に近づく時以外は減速したりすることも殆どない。時速300キロ平均で走っているがさほど速さは感じない。とにかく外を見ていると国土の広さに圧倒される。北海道と言えどもこれほど広くはない。このようであるから乗客は乗るとすぐトランプを始めたりするのであろう。

4時間が過ぎる頃、“降りる準備を”という車内放送があった。11時2分発の高鉄(本当は10時57分であったが)は大連北站を出て途中6つの駅に停車し、15時9分到着予定である。いよいよ哈爾濱西站だ。駅に近づくと流石に建物が増えてきた。4年ぶりのハルピンはどのように変わっているのだろうか。ところでハルピンの市名の由来を調べてみた。すると諸説あって定説はないとあった。そのなか「白鳥」を意味する満州語という説が紹介されていた。私は新潟にいた時、冬に白鳥が羽を広げ飛び雄姿を何度も見たからか、北の街「ハルピン」の市名の由来はこの説がふさわしいと感じた。(続く)

松田ちゑさんは、人民政府を訪ねた。散乱した日本人の遺骨の状況を話し、なんとか自分たちで埋葬したい旨、許可を願い出た。ほとんどが「開拓民」たちの遺骨とはいえ、中国から見れば、侵略のお先棒をかついだ人たちの白骨である。まだ侵略の傷跡が癒えていない1963年、県政府は「侵略者の骨など埋葬する必要はない！」と一蹴してもおかしくない状況である。

しかし県政府はそうはしなかった。日本人の散乱した骨をどう処理していいか、残留日本人の願いにどう対処すればいいか、彼らは上部の黒竜江省政府に相談した。省政府もこの問題を簡単に片づけることなく、中央政府に判断を仰いだ。

仮に、江沢民が主席の時代だったらどう県政府や省政府は処理したのだろうか。あるいは現下のような日中両政府が良好でない状況だったらどうだろうか。

松田ちゑさん自身が県政府に埋葬許可を願い出たろうか。県政府や省政府が松田さんの願いを考慮したのだろうか。歴史に「もしもあの時」という設定には意味がないという。しかし、どうしてもそう考えたくなくなってしまふのである。

日本の敗戦後、全中国は国民党と共産党との熾烈な内戦状態になった。毛沢東や朱徳、周恩来の威光などがまだ轟いていない時代である。当時の在日華僑などは、アメリカ軍の後押しを受けて国民党が勝利す

るだろうと睨んでいた。しかし結果は違った。中国共産党は旧満洲、東北を重要拠点と重視して全勢力を注ぎ込み、国民党を打ち破って東北地方で最

初の人民政府を打ち立てた。

当時の中国共産党は国際主義的精神が横溢してい

た。周恩来は中国人民に対して常に、「日本の軍国主義者と日本人民を区別せよ。日本人民も軍国主義の犠牲者である」と説いた。

「満洲国」時代には、日本からも各宗派の僧侶がやってきた。当然のごとく、日本人が死ねば、「満洲国」にある浄土真宗なら浄土真宗のお墓に埋葬された。当時、たくさんの日本人のお墓があったはずである。中国を侵略した日本が敗戦を迎えると、たちまち傀儡国家だった「満洲国」は崩壊した。当然のごとく、多くの日本人の墓地は一掃され、公園になったりした。

最近、ハルビンに「おキクさんの墓」があるそうだ。ぜひ参拝したいがわかるだろうか。山陽地方から私の所に来た人がいた。おキクさんは、いわばからゆきさんとして満洲へ渡り、関東軍の諜報活動に携わり日本国家に「貢献した」ようである。そのおキ

クさんが死んだ時、日本支配下にあった朝鮮の新聞が彼女の死を悼んだという。

そんなおキクさんの記事を目にした年配の男性は、墓がなくても、その跡地でもわかれば詣でたいと言うのだ。たぶん、日本人のお墓は全部一掃され、今ある日本人のお墓は、方正県にしかないはずですよと答えた。もし間違いがあってはいけないとおキクさんに詳しい研究家に聞けば、かつて

の墓地はいま遊園地になっているという。

方正にある日本人公墓は、文字通り、中国で唯一の日本人公墓なのである。

中国で唯一の日本人公墓  
方正日本人公墓とは何か②  
方正友好交流の会事務局長・大類善啓



方正に立つ二つの日本人公墓  
「方正地区日本人公墓」(右)と「麻山地区日本人公墓」

麻山地区日本人公墓」は、避難の途中、ソ連軍に攻撃され、麻山地区で集団自決に追い込まれた、500人余りの開拓民を葬った墓で、方正地区の日本人公墓が建てられた20年ほど後に造られた。



10月2日、三沢市周辺市町村の国際交流事業を紹介する「ミニ国際ショナルフレンドシップフェア」が行われ、六戸スタッフとして作った中国料理・刀削麺は好評を得ました。

三ヶ月前、この事業の誘いを頂きました。担当の方と何回も打ち合わせた上で、私の持っている記念切手、入場券など雑貨の展示と中国料理一品、そしてミニ語学講座を行うことになりました。展示品は10日くらい前に中国から送ってもらいました。中国料理は、地元山西料理の刀削麺を作ることになりました。

当日になり、9時に出発

し三沢へ。到着してから早速準備に入りました。一品料理と言いますが、実際にはタレだけでも二種類ありました。一つはトマトの炒め物、もう一つは豚肉とシイタケの炒め物。これで野菜のタレとお肉のタレができました。

地元、山西省の刀削麺は生地の捏ね方、削り方、姿勢などに拘っています。削った一本一本の麺が太さが均一で長さが8、9寸で、私が湧かした鍋の前に立ち、右手で生地の塊を持ち上げ、左手は日本の小さな包丁を持ち、削り出しました。太さと長さはプロと比べ物になりませんが、一本がお湯の中に入って、一本が飛んで、一本が削られていて、できた麺が魚のように鍋の中に泳いでいました。珍しいからか、お客さんが続々と来て囲まれました。最初は試食に来るかどうか心配しましたが、意外に試食者が多く、削るのがなかなか間に合いませんでした。一気に用意した生地を全部削り終わり、12時頃には全部試食してしまいました。

皆さんは試食だけではなく、料理の方法にも興味があったようです。

「タレはどんな調味料を使いますか」

「生地は小麦粉と水との割合はどれくらいですか」と様々な質問をされました。

刀削麺が終わってから、私はイギリス料理、イタリア料理、韓国料理などを試食しました。美味

しかったです。試食しながら、他のスタッフに「こういう国際交流が毎日あればいいですね」と言うと皆笑いました。

午後、閉館前に私のミニ語学講座を行いました。山西省の世界遺産を紹介し、中国語での挨拶の言葉と片手で一から十までの表し方を教えました。

4日の月曜日の朝、出勤すると、私のテーブルの上に一枚のコピーが置いてありました。見ると、デーリー東北新聞の記事でした。私の刀削麺の写真も載っていました。「中国の刀削麺のコーナーでは、鮮やかな手つきで小麦粉の塊を削って鍋に入れる実演が行われ、人だかりができた」と書いてあり、嬉しくなりました。皆様、以上手前味噌を並べて、ごめんなさい。

「鄧さん頑張る・日本探検記」は、2004年から2006年の2年間、青森県六戸町の国際交流員として国際友好活動にかかわった、中国山西省太原市に住む一中国人・鄧仁有さんの日本体験です。



刀削麺の実演と試食コーナー



三沢の「ミニ国際ショナル・フレンドシップフェア」での中国展

# 真夏の韓国低山歩き ① (2013.8.16～21)

関根 茂子

韓国の沢登りやクライミングに年に数度は出かけている韓国通のSさんから、「お盆過ぎに韓国の山に行かないか」とのお誘いをうけた。目的の山は大田市近郊の1000m足らずの3山で温泉連泊とのことだ。実は、この4月末にSさんから珍島の海割れ見物と近くの山あるきを誘われたのだが、仕事の都合でどうしても休みがとれなくて諦めたのだった。

私は過去に2度、彼女のお誘いで、北漢山(ブッカサン)と逍遙山(ソヨサン)に連れて行ってもらったことがある。どちらもソウル近郊の山へ地下鉄とバスを乗り継いで登山した。日本でいえば「高尾山みたいな山」と言われてそれならと参加したのだが、韓国の山は標高が低くても結構な岩山で、傷んだ膝にはきつく、もともと私は岩場が苦手なのだ。岩場は敬遠したいが、温泉は大好き、温泉連泊の魅力に二つ返事で参加表明、ほかに珍島の海割れ同行の3人も参加、女ばかり6人(平均年齢70歳)が集まった。韓国語ができるのはSさん一人、Tさんは韓国語の勉強を始めて2ヶ月、ハングルが読めるようになったという。残り4人は韓国語を全く分からないのだが、何とかなるだろう。

## ◆8月16日(金)出国

済州(チェジュ)航空7C1103便、成田18:30発  
仁川(インチョン)国際空港21:10着

格安航空券のため、機内サービスは水のみ提供。空港の窓口は夜でも両替は可、書類もなしで日本円を渡すとウォンにしてくれる。本日のレート1万円=10万5千W。



大田(テジョン)市ハンバット樹木園散策



仁川空港で夕食に讃岐うどんを食す。

SさんがSKYホテルに公衆電話から迎えの車をたのもうとしたら、なぜか電話機がテレホンカードを受け付けない。しかたなくサービスカウンターでホテルに電話をかけてもらって迎車の待ち合わせ場所を聞く。彼女は韓国語ができるのだ。

ホテル着22時30分ごろ 部屋はダブルベッドとシングルベッドが2つ、この部屋に3人で寝ることになる。ダブルベッドではお互いに安眠は出来難い。台湾でも山小屋がダブルベッドで困ったことがあったっけ。

## ◆17日(土) 大田(テジョン)市⇒儒城温泉(ユソンオンチョン)<sup>1)</sup>へ移動

7:00、空港に送ってもらう。まずは切符(仁川空港→大田)を購入、朝食後8:20発大田行き高速バスに乗車。11:30大田着後、あすの俗離山(ソニサン)行きバスの切符を購入して、ついでに乗り場を確認をしておこうと下りたバスターミナルで切符売り場を探す。見た範囲ではそれらしいものは見当たらない。Sさんが尋ね、その人の指差す方に進み、建物の外に出れば、そこは車のたくさん行き交う大通り、笛を吹いて車を止めて信号がない大通りを安全に渡す人が忙しく働いていた。左右を見てもお店が並ぶばかりで困惑する。どうみてもバス切符を売っている窓口らしきものはないのだ。再び中に戻ってSさんが聞いてくれば、なんとバスターミナルは大通り向こうだったのだ。

渡ってみれば、こっちはバスの出発ターミナルの



俗離山登山案内看板

ようで、たくさんの切符販売窓口がならんでいた。窓口前にいるタスキをかけた案内係らしき人が数人いる。当たり前だが日本語で聞いてもこちらの言いたいことは伝わらず、向こうも困ったのか、ついに日本語の分かる上司が登場する。言葉が通じるというのはありがたい。

無事に明日の俗離山行きの切符を購入でき、今夜泊まる儒城温泉行きバスの時刻表ももらえた。午後から「ハンバット樹木園を見学して、その後、儒城温泉に行きたい」と言うと「それなら、温泉は樹木園からの方が近い。またバスターミナルに戻ってバスに乗るよりタクシー利用の方がいい」と教えてくれる。

さて、お昼を食べよう。ターミナル内のフードモールの献立サンプル展示ケースを眺める。見た目で食べたいものを「これ」と決めても、ハングルが読めないの、食券を買うレジに行っても注文が出来ない。文盲ではまます、ここでもSさんをお願いします。

昼食後、タクシー2台でハンバット樹木園へ向かう。タクシー乗り場先頭車にSさんが乗り込む。ハンバット樹木園のコピーを手渡された私がすぐ後ろの車に乗ろうとすると「前の乗車位置に車がいってから乗れ」という感じで乗せてもらえない。近くにいた韓国人がさっさとその車に乗りこんでしまった。2台も後ろの車にハンバット樹木園のコピーを見せて「ここへ行ってくれ」と指す。車が行きたい方に走っているかを地図とにらめっこで確認。なんとか前の車と同じ場所に無事到着した。ところが、植物園へ行くつもりだったのに車はエキスポ公園前についてしまった。樹木園はそこで正しかったのだが、こちらが樹木園を植物園と勘違いしたのだった。

真昼の日差しはともかく暑く、植物園にこだわる気持ちはたちまち失せてしまった。重荷のザックを何とかしなくちゃ身動きがとれない。エキスポ公園管理

室に立ち寄って1時間だけの約束でリュックを置かせてもらえほっとした。空身で樹木園の東園を散策、蓮池ではハスがきれいに咲いていた。

荷物を引き取って、日盛りの公園は暑くてかなわんと子どもが水遊びするジャブジャブ池を目の前の休憩所で、アイスコーヒーを飲みながらゆっくり休んでやっと生き返った。

15時過ぎ儒城温泉キョンハホテル(HOTEL KYUNGHA)にタクシーを横付ける。

今日からの3泊はオンドル部屋でよかった。大浴場入浴料金は別途200W。

16:30から温泉案内図を手には街探検歩きに出てみれば、私達のホテルは街外れで中心街には大きく立派なホテルが建っていた。途中で夕食をとって、コンビニで朝食用、昼食用の食料を調達するも、ここでもハングルは読めず、包装のおにぎりの具材は不明で、中身は食べてみてのお楽しみ？

20:00頃帰館。大浴場入浴は時間切れで明日に持ち越しとなる。

#### ◆18日(日) 俗離山(ソンニサン)<sup>2)</sup>登山

5:40ホテル前からタクシーで大田東部バスターミナルへ。Sさん乗車の車が先着、10分たっても後続のTさんの車は来ないのだ。ホテルのフロントの男性が行き先を大声で言っていたにもかかわらず、儒城温泉バスターミナルに行ってしまった？ どうしちゃったのかな。後から聞いてみれば、料金稼ぎにか街中を2巡してから大田東部バスターミナルに来たようだった。言葉がわからないのでどうにもならないので、昨日購入済みの俗離山行きのバス切符を見せたら、やっと大田東部バスターミナルにタクシーが向かったということだ。

日曜で混雑するからと前もって購入したのに、6:50発バスはガラガラだ。ナップザック軽装の韓国人中年女性3人連れも俗離山に行くようだ。

乗ってみて、韓国のバス停は日本のようにバス道路沿いにある場合もあるが、バス幹線道路や街中の道路から引っ込んだ場所にバスターミナルがあることが分かった。無人のターミナルには自動販売機が設置され、離れたところにトイレもある。そして停まったバスは何の予告もなく発車するのだった。

8:27俗離山バス停着。さて、どちらの方向へ進んだらいいのか？ うろうろした揚句、北に山が見えて方向が定まる。お寺のみやげ物店兼食堂が立ち並び門前町風通りを抜けて行く。バス車内でおにぎりを

1つ食べただけの私は、どこで朝御飯にするのか気になるが、Sさんはどんどん先に行ってしまう。店先の平箆に黒い小さな巻貝殻が山になっていて、何という貝だろうと興味をそそられた。

途中の分岐で、ハングルを形で判断して登山口と読んで脇道に入りこみロスタイム。正しい道を進むと林間にキャンプ場があり、そこは家族連れのテントが所狭しと立ち並び朝食の準備中だった。車もいっぱい、後から後から車がくるので、駐車整理の人もいた。彼が登山口はあっちと左手を指さす。やっぱり今日は日曜日だと納得。

ここから左、大勢の韓国人登山客に交じって、沢沿いの整備された公園内の道を歩いていくと男の子2人と夫婦とみられる家族が前を歩いている。荷物を持っているのはお父さんだけだ。「ファミリー？」と声をかけると「そうだ」という。こちらが日本人と分かるとスマートフォンを操作して金閣寺に行ったときの写真をみせてくれた。

(続く)

## ■注記

1) 儒城温泉：(ユソンオンチョン)は、大田広域市郊外にある温泉。市の中心街から西へ11kmほど離れたところにある。大都市の大田近くにあるため数多くの旅館、ホテル、飲食街が建ち並ぶ。近くに2002年のワールドカップの会場にもなった競技場がある。儒城温泉には以下のような伝承が存在する。百濟時代の末期、新羅との戦争で大怪我をした息子を持つ母親が、この地に湧き出る温泉で鶴を見た。鶴は温泉に翼を沈めると怪我が治った。それを見た母親が息子を連れて、その温泉に浸かせたところ怪我が綺麗に治った。

(ウィキペディアより)

2) 俗離山：1970年、6番目の国立公園に指定された。昔から第二の金剛、または小金剛と呼ばれるほど、秀麗な景色を誇る。総面積274,541km<sup>2</sup>に達する俗離山国立公園は、忠清北道と慶尚北道のいくつかの地域にまたがる岩山である。主峰の天王峰と毘盧峰、文蔵台は白頭大幹の壮大な稜線と連っており、岩峰と岩稜が発達している。俗離山には多くの山が接していて、南の天王峰(1,058m)を中心に、毘盧峰、文蔵台、観音峰など、8つの峰が弓のように曲がった形で伸びている。

(ウィキペディアより)

## 智子の雑記帳 96

### 不安を受け入れて生きる

台風が上陸するという日、ちょうど休日だったこともあり、すべての予定をやめて、家にいた。以前と比べて、大分、いろいろなことに臆病になった。

10年前、20代の頃は、営業職で、台風の日も飛び回っていたのを思い出す。「こんな日に…」と、訪問先の人が驚くのが楽しかった。多少体調が悪くても、気にならなかった。医者にも行かず、気にしないうちに、治っていた。

2011年3月、震災の影響で交通網が乱れると聞いたとき、すぐに出勤自粛を決めた。職場に連絡したが電話が通じず、同僚にメールして上司に伝えてもらった。自分の判断が、自分でも意外な気がした。以来、台風の情報があると、早めに職場から帰ったり、雷が鳴ると駅構内で待つようになった。体調が悪ければ、無理せず病院に行き、以前は勝手に減らしていた薬も、今は処方どおり飲んでいる。

結局、日常は、些細なことで変わりうるという

ことを実感したことが大きい。なにより日本は、原発事故の後処理という不安を抱えて生きている。その不安が、なんとなく色々なことを臆病にさせる。先日、震災前に流れていた、あるテレビCMをインターネットで偶然観て、その気楽な感じに、「あの頃はよかったなあ」などと、うそぶいてしまった(今、そのCMは「生きてくことが、つらいなら」という歌詞の音楽で、少し暗いものになっている)。

先日、私も大好きな朝ドラ「あまちゃん」で、震災の日が流れていた。東京にいる人たちのリアクションで語られた「あの日」は、私の心をざわつかせた。後日、「海が怖くないのか」と尋ねる孫のアキちゃんに、祖母の夏ばっばは、海が怖いのは今回が初めてではないこと、いろいろなことがあるけれど、ここが自分たちの生きていく場所だと諭す。

不安を抱えながら、ではなく、受け入れて生きていく。臆病で、構わない。

(真中智子)

## グラモダヤ民族芸術センター その4

赤岡健一郎 (日本スリランカ武道協会  
日本スリランカ文化交流協会)

前回の文中に間違いがありました。キャンディとアヌラダプラ、クルネガラを結ぶ三角地帯と書きました。クルネガラは間違いで、正しくはポロンナルワです。お詫びして、訂正させていただきます。

キャンディからアヌラダプラまでの約140kmをつなぐ国道9号線沿線が、グラモダヤ民族芸術センターの職員の方から話を聞いた時に、古布が見つかるのであれば此処だろうと思っていた地域です。

キャンディを出発して約25km北上すると最初の大きな町であるマータレーに着きます。信号は殆ど無いのに約1時間かかりました。道が悪いのがありますが、途中の小さな町中で渋滞したり、ゆっくり走るバスを追い越すのに手間取ったり、野良牛が道路で立ち尽くしていたりと、運転するのもなかなか大変です。

マータレー近辺の国道沿いには数軒のバティック屋さんがありました。此処でアジアの手織りの布と染織に関する本を見せて、このような古布を見た事がないか、誰かから聞いたことはないかと尋ねてみましたが、どの店でも色よい返事はありません。手製の民芸品を売っている店でも聞いてみましたが答えは同じでした。やはりシンハラ語が話せないのが致命的で、観光客相手の店の人は英語が通じますが、お年寄りと話をしたくても英語は通じません。コロンボであれば周囲にいる誰かしらが助けてくれるのですが、地方に来る

と世話好きのスリランカ人もいないようで、どうやら外国人が苦手ようです。マータレーで古布を探すのは諦める事にしました。

次のダンブッラの町に向かう途中で2カ所寄り道をしました。最初はマータレーの町はずれのアルヴィハーラという寺院です。紀元前1世紀に建てられ、スリランカで4番目に古いと言われています。此処には椰子の葉を蒸した後に乾燥させ、更になめして作るパピラという紙に書かれた、2000年以上前から作られている仏経典が保存されています。寺院内では現在もパピラを使って経本を作っていて、この作業を見学する事が出来ます。パピラという言葉は紙(Paper)の語源となったエジプトのパピルスに似ているのが不思議です。

2カ所目はマータレーから約25km北上したところにある、ナーランダ遺跡です。此処は「スリランカのへそ」と言われています。1000年以上前に作られた仏教遺跡でピットリ中心ではありませんが、ほぼスリランカの中心に建てられています。十分な測量具や地図が無かった時代に、どのようにして場所を決めたのか不思議です。偶然にこの場所に建てられた寺院を、後になって「スリランカのへそ」と呼ぶようになったのではないかと、疑いたくなります。

しかし、スリランカ赴任中に見た、シーギリヤや各地に残されているシンハラ王朝の代々の王様達が築いた貯水池と灌漑施設の技術を考えると、何らかの方法でスリランカの中心地を割り出したのだらうと思います。

マータレーからダンブッラに向かう沿道にも何軒かのアンティークショップやバティック屋、民芸品屋がありました。ここでも、同じ質問をしたのですが、芳しい成果はありません。その中で、あるアンティークショップの店主は日本語がペラペラでした。奥様が日本人、店主本人も長年日本で働いて稼いだお金でその店を始めたのだそうです。

この店主には言葉の壁が無いので、かなり細かく質問する事が出来ました。村の中で機織り機を見た



クルネガラで立ち寄った店のショールーム 仕立て上がったカラフルな衣装がいろいろ展示されている。

事はあるが、本に載っている模様の布は見た事がない  
 そうで、殆どのデザインが直線の組み合わせだそう  
 です。此処で予定の日数になってしまいました。収穫が  
 ありそうならば、予定日数を延長するつもりでしたが、  
 この調子では何もみつきりそうもありません。今回は  
 諦めて、手づらで帰る事に決めました。

ダンブッラからは国道6号線を南下し、クルネ  
 ガラ経由でコロンボに帰る事にしました。帰路の  
 沿道にもバティックやお土産物を扱っている店は  
 ありましたが、わざわざ停まって古布に関する質問  
 をする気にはなれませんでした。クルネガラ  
 の町を通り過ぎて暫くすると、進行方向の右側に小奇  
 麗な2階建ての店が見えてきました。良く見ると  
 店の名前と共にHand Woven (手織り) と書かれ  
 ているのが目に入ってきました。これは大当たりか  
 もしれないと思い、急いで車を停めて店に入り、店  
 長さんに会わせてもらいました。これまでと同じよ  
 うに本を見せて質問をしましたが、答えは同じで  
 した。ただ、この店長さんは、スリランカにもこの  
 本にあるような織物があったと思うと言ってくれ

ました。その後、店内を案内してもらいました。1階と  
 2階がショールームで建物の裏の染色場と機織場にな  
 っています。お茶を御馳走になって再び帰路に着き  
 ました。今回は古布に関する情報を得る事は出来ませ  
 んでしたが、機会があればシンハラ語を話せる人を連  
 れてもう一度挑戦したいと思います。 (続く)



ショールームの建物の裏手にある機織場には、織機が並べられ織り手の少年が一生懸命織っていた。ここには染色場も備えられている。

### 《'わんりい' 掲示板》

#### ◆わんりいの催し

#### 中国語で読む・漢詩の会

- ▲場所：ままちだ中央公民館音楽室(7F)
- ▲月日：10月の講座 10月20日(日)
- ▲時間：10:00～11:30
- ▲講師：植田渥雄先生(現桜美林大学孔子学院講師)
- ▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲定員：20名(原則として)



\*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆申込み：☎050-1531-8622(わんりい)  
 E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp

#### ◆わんりいの催し

#### ボイストレーニングをして 日本の歌を美しく歌おう!

- ◆動きやすい服装でご参加ください
- ▲場所：まちだ中央公民館・6F視聴覚室
- ▲月日：10月8日(火)
- ▲時間：10:00～11:30
- ▲10月の練習歌「花は咲く」③
- ▲講師：Emme(歌手)
- ▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲定員：15名(原則として)



●申込み：わんりい ☎042-734-5100  
 E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp

#### 【つるかわ水墨画を楽しむ会】

#### 無料水墨画体験会

- ▲場 所：鶴川市民センター・第一会議室
- ▲月 日：10月14日(月)
- ▲時 間：14:00～16:30
- ▲講 師：満柏(水墨画家)
- ▲定 員：5名
- ▲申込み：☎042-735-6135(野島)

#### 【講師プロフィール】

1965年、中国の遼寧省に生まれる。祖父、母親は中国の著名な画家。中国の美術大学を卒業後来日。個展・グループ展多数。水墨画・書の傍ら、美学芸術論を研究。日中水墨協会会長、中国水墨芸術家連盟常務理事他。2008年第11回「全日中展」準大賞受賞。

#### 使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を!

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、使用済み古切手と書き損じの葉書を集めています。古切手は周りを1cmほど残して切り取り、おついでに折に「わんりい」の事務局にお届けくださるか、田井にお渡し下さい。

## サハ共和国・ヤクーツクだより ⑤

杉嶋俊夫

現地滞在中の文章の中ではあまり多くはタイムリーなことに触れませんでした。体験したことをいくつか時系列順に記してみたいと思います。

私が北東連邦大学に赴任した3月中旬というのは長い冬の終わりにあたり、日毎に少しずつ暖かくなっていきました。それに伴って大学内のイベントも増えていき、なかなか街には出られませんでした。3月末に民族衣装・装身具ファッションショーを観ることができました。サハ共和国の各地から応募者が集まり、プロのデザイナー・職人だけでなく現役の大学生・専門学校生も出品していました。サハならではのエキゾチックで美しい作品をたっぷり堪能できました。このショーは厳密には「コンテスト」で、幸運なことに翌月に、入賞者のショーも観られました。

4月中旬、ヤクーツク市内の図書館のビブリオノーチ(書物の夜)というイベントを覗きました。これはロシアの他の都市でも行われている恒例行事で、夜11時頃まで図書館を開放して、書庫案内、地元著名人の講演会、ブックリサイクル、ミニコンサートなどが開かれるのです。今回最大の目玉は漫画描画教室でした。会場となった図書閲覧室を少年少女が埋め尽くして、腕を競い合っていました。ちなみに市内には3つの大きな漫画サークルがあります。その1つは、描き方がかなり独特(サハ風?)で、同人誌も出しています。

同じ頃、学内で知り合った女性の誘いで、彼女が働いている学科主催の大学間文化学コンテストの審査員をすることになりました。文化学というのは歴史学・芸術学・哲学などの学際的な視点で文化を研究する学問です。文化学科は学内でも比較的新しい学科で、初めての試みとしてコンテストを行ったのでした。文化学コースのある市内のほぼ全ての大学の学生が出場したのですが、まず大学の数の多さに



**1** **ファッションショー** サハのファッションの特色は、伝統的な文様をうまくデザインに取り入れていることです。ただ、実際に街を歩いていてそのようなファッションにお目にかかることはありませんでした。

びっくり。審査してみて学生たちのレベルの高さにまたびっくりしてしまいました。

4月末、偶然、障害を持つ子供たちの養育施設主催の祭典を観る機会に恵まれました。その施設は日本でいう児童館に隣接しており、さらにその近所にはサーカスがあります。祭典は、児童館のサークルの子供達やサーカス団員らと日頃の施設の子供達との交流の様子とその成果を発表するという意味を持っていました。ユニークな地域コミュニティの活動を垣間見た一日でした。

5月1日はメーデー。日本ではその意味を知らない若者が増えてきましたが、ヤクーツクでは老いも若きも朝から昼過ぎまで市内を練り歩きます。ただ、実際は企業、大学、行政機関等の宣伝パレードに近いものかなと感じました。当日はパレードに合わせたように次第に天気がよくなって、大いに盛り上がりました。一番面白かったのは、パレードの終点で解散すると人々が輪になってダンスを踊り始めたことでした。このダンスの話は次回以降にまた少し触れたいと思います。



2

**マンガ** ビブリオノーチ(書物の夜)の目玉イベントだったマンガ描画講座(コンテスト)。会場になった閲覧室の外の廊下には講座の主催者であるマンガサークルの作品が、入口には日本のマンガ単行本(英語・ロシア語版)が、展示されていました。漫画作品を大きく分類すると、日本風・アメリカ風・サハスタイルの3種類?があるようです。



4

**子どもの祭典** バリ島の王を演じる障害児養育施設の子と、王女を演じる子どもサークルの女の子。背景のスクリーンには、普段、施設の活動を紹介します映像が出し物の合間に映し出されていました。



3

**文化学コンテスト** 北東連邦大学の文化学科は、北方諸民族言語文化学部があり、シベリアだけでなく世界の文化を学ぶことができます。大学間コンテストでは、ある共通の課題の解決策を各グループ(各大学)で考えて発表するというゲームもありました。写真は、解決策を発表するグループの代表たち。



5

**メーデー** おそらくパレードで最長だったのが北東連邦大学の行列です。こちらに映っているのは、文学部の学生たち。西欧の騎士風のグループや、中国の人民服のようなものを着ているグループもありました。

### 【杉嶋俊夫さんからのお知らせ】

11月9日(土)13:00～(小田急線 和泉多摩川駅徒歩3分)日本シルクロード文化センターの講座でヤクーツク滞在中の話をしてします。詳細は、日本シルクロード文化センター(<http://silkroad-j.lomo.jp>)のホームページ・左側メニューの「シルクロード講座」をクリックしてご覧ください。尚、10月20日には狛江駅前と同センター主催のユーラシア諸民族コンサートがあります。

### 【'わんりい'の原稿を募集しています】

'わんりい'は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。

又'わんりい'の活動についてのご希望やご意見及び'わんりい'に掲載の記事などについても、簡単なご感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル 'わんりい'

〈林敏 揚琴リサイタル・万里の絆〉

2013年9月20日(金) 場所：和光大学ポプリホール・鶴川

9月20日(金)、『わんりい』と林敏後援会両者を主催者として『わんりい』活動20周年記念\* & 林敏来日音楽活動20周年記念の「林敏 揚琴リサイタル・万里の絆」が、和光大学ポプリホール・鶴川で開催された。

当ホールは昨年秋に竣工し、今年1月より町田市市民の利用に供されるようになったばかりの300席のホールだ。林敏さんの揚琴演奏は演奏会を重ねることにリピーターを増やしており、9月初めには林敏さんのファンでチケット完売状態になった。参加を希望された皆様には大変申し訳なく胸が痛んだ。お詫びしたい。

当日は、林敏さんの揚琴を中心に、東京交響楽団所属の演奏者たちによるピアノ・チェロ・コントラバスの編成で、オペラやバレエ音楽・交響詩など西洋音楽や中国の曲、日本の懐かしいメロデーなど馴染の曲が散りばめられたバラエティに富んだもので参加者の誰しものが楽しめた。在日揚琴演奏のNo.1と評される林敏さんのいつもながらの素晴らしい演奏は、更に来日20周年記念の気迫をも感じられて参加者を魅了した。

実は、林敏さんはこの夏の、酷暑と表現された暑さの中で、連日7時間から8時間の演奏を欠かさなかったとのことだ。林敏さんの演奏会に欠かさず参加くださる方々に、演奏会の都度、新しい曲の演奏を聴いて頂きたいとのことで、今回のプログラムの3分の2に当たる曲目は林敏さんにとって初演奏の曲との事だった。



開場前のホワイエ(ロビー)風景



20年間の『わんりい』の原稿が左側のテーブルに並べられた



演奏風景 満席の会場が静まり返って林敏さん等の演奏に聴き入った

\*『わんりい』活動20周年は、2012年度だったが、昨年度は町田市の助成を得て「つながろう! ひろがろう!! 地域の輪と和」開催の為、今年に見送った。

## 20年という歳月を想う

陽光新聞(在日華人向け新聞)顧問 塩澤宏宣

‘わんりい’ 20周年おめでとうございます。同時に、メンバー皆様の日々にわたるご活躍に敬意を表します。田井様のご挨拶にありましたが、20年たてば生まれた子も成人になります。

‘わんりい’ 誕生の1993年に何があったか、資料をめぐってみました。まず皇太子・雅子様のご結婚がありました。Jリーグの誕生、細川内閣発足、クリントン氏が米国大統領に就任が目につきます。映画ではジェラシックパーク(洋画)、ゴジラVSモスラ(邦画)、書籍では人間革命やマディソン郡の橋があり、悲しい思い出としては北海道南西沖地震(M7.8)などなど。時の経つのは早いものです。‘わんりい’はそれ以来のご活躍



演奏者の皆さんたち：左から、萩森英明さん(ピアノ・作曲・編曲) 安田修平さん(コントラバス)樋口泰世さん(チェロ) 林敏さん(揚琴)

です。市民サークルの強靭さを改めて学びました。

揚琴奏者の林敏さんのコンサートは「東西文化が融合」した点で感動しました。古代ペルシャで生まれた打弦楽器が東に渡って揚琴に西に渡ってピアノになったそうです。それが2013年9月20日に町田市で再度融合しました。ピアノの萩森英明氏によるアレンジも素晴らしくチェロの樋口泰世さんと安田修平氏(共に東京交響楽団)と、みごとなハーモニーを生み出していました。

会場で拝見した‘わんりい’の年表には、このようなコンサートが毎年行われてきたようです。そうした実績が今回のコンサートに生きているように感じました。

日中関係に関して「嫌中・嫌日」が90%を超えたことが話題になっています。日常接する知人からは信じられない数字です。この詳細を分析しましたが最大の要因は両国メディアにあります。

ご承知のように中国メディアは党の管理下にあり、中国政府の宣伝部門ですからメディアに接する人たちが誤認することはやむを得ません。一方報道の自由を標榜する日本のメディアは最悪です。彼らは「報道の自由」を履き違えて世論の混乱を煽っています。私感ですが、その半数以上が捻じ曲げられた報道です。山も森も見ないで1本の木ばかり報道しています。

この状態では「嫌中・嫌日」が好転するとは考えられません。もう一度相互理解することから始めてはどうでしょうか。良い点は認め合いそれを育てる。相違点は相互認識する。力でねじ伏せるような子供の喧嘩はしないことです。そして次代を背負う若い人たちにバ

トンタッチすることです。

こうした視点から観ると、‘わんりい’の20年に及び市民活動の実績がいかに貴重なその一歩であることがご理解いただけると思います。日本では数多くの市民団体が文化活動をされています。一方の中国ではこのような活動をする団体を知りません。中国にもこのような市民運動が起これば良いと思います。日本に留学し、やがて帰国する若い中国人たちに、そうした期待を持つことは有意義ではないでしょうか。

国土面積で26倍、人口で10倍の中国で「市民活動」は可能か、ということになるといささか自信がありません。しかし長い民族の歴史を持つ両国ですから出来ないことはないと思います。長い長い歳月を思うとき、1万年以上「海に守られた」日本と、「地続き」という環境で争いながら守り続けた国々のDNAは違うなあとこの万感の思いが浮かびます。

◆わんりいの催し

ちまき  
**中華粽を作ってみよう会**  
作り立ての中華粽を食べる中国家庭風のお食事会

▲場所：まちだ中央公民館 6F・調理実習室  
東京都町田市原町田6-8-1 / 小田急線町田駅南口徒歩5分 / JR 横浜線町田駅ルミネ口徒歩3分

▲月日：2013年10月14日(祭)  
▲時間：11:00～  
▲会費：1500円 \*お土産付き  
▲定員：先着15名



◆申込み：☎050-1531-8622(わんりい)  
E-mail:ukiuki65@yahoo.co.jp

町田国際交流センターの催し

第11回留学生トークプラザ  
**留学生は日本をどう見ているか**

留学生たちの素晴らしい日本語と、異なる視点からの鋭い観察と主張を聞いてみよう!

●開催日時：2013年11月9日(土)  
●開催時間：14:00～17:00(開場13:30)  
●会場：町田市立中央図書館 6Fホール  
東京都町田市原町田3-2-9/JR 横浜線町田駅ターミナル口徒歩2分 小田急線町田駅徒歩10分

●参加無料(定員60人、申し込み順)  
●申込み方法  
FAXで、住所・氏名・参加人数と電話番号を町田国際交流センター「留学生トークプラザ」係へ(FAX: 042-722-5330)

◆問合せ：町田国際交流センター  
☎042-722-4260(8:30～17:15日・祝除く)

**予告!** 2013年11月11日(月) 於:町田中央公民館・調理室で、'わんりい' 秋の恒例講座「手づくり月餅の会」を予定しています。(詳細次号)

**予告!** 'わんりい' の仲間たちが参加!  
**第4回 京劇教室・鑼鼓教室合同発表会**  
参加無料 2013年11月23日(土)  
15:00 開演(14:30 開場 19:00 終演予定 入退場自由)  
会場：角筈ホール(京王線「初台」または大江戸線「都庁前」から徒歩10分)  
(詳細次号)

**北京風来京劇団・東京公演** <http://www.jcfa-net.gr.jp/tokyo/kyougeki.html>

▲11月21日(木)昼公演14:00～/夜公演19:00～  
▲日本青年館 大ホール(神宮外苑)  
▲前売り4500円/中学生・高校生1500円/小学生以下無料  
▲全席自由席  
◆主催：日本中国友好協会・東京都連合会  
◆申込み&問合せ：日中友好協会ホームページ

**第23回文化之日/展示の部**

<http://www.toho-shoten.co.jp/toho/saiji3-046.html>

**中国を彩ったポスター展**

1930年代から現代までのポスター 300点の中から、約70点を選びすぐり展示。

●入場料：無料

●9月26日

(木)～10月20日(日)

10:00～17:00/毎水曜日休館

\*初日は15:00開場、最終日16:00

迄。10月18日(金)・19日(土)は20:30まで開館

●会場：日中友好会館美術館

(JR 総武線飯田橋東口7分/都営大江戸線・飯田橋C3出口1分)



★  
**第23回中国文化之日 公演の部**

<http://www.toho-shoten.co.jp/toho/saiji3-047.html>

☆京劇の小スター中国小梅花公演団 来日公演☆

11歳～14歳の少年少女達が伝統演劇を披露

① 10月18日(金) 19:00～

②・③ 19日(土) 13:30～/18:30～

④ 20日(日) 13:30～の全4回公演

(30分前に開場、上演時間は1時間程度)

●会場：日中友好会館地下1階大ホール

(JR 総武線飯田橋東口7分/都営大江戸線・飯田橋C3出口1分)

●入場券：ファミリーマート 日中友好会館事務所

前売り1,000円、全席指定(空席があれば当日券1,200円を販売)

◆主催：(公財)日中友好会館

◆問合せ：☎03-3815-5085 日中友好会館文化事業部

'わんりい' 187号の主な目次

北京雑感(78)床屋さん	2
諺・慣用句(23)「精衛海を填む」	3
媛媛讲故事(57)「南柯太守の夢Ⅱ」	4
中国-城市めぐり(27)「哈爾濱市」	6
中国で唯一の日本人公墓	9
日本探検記(6) 三沢にて刀削麵実演	10
真夏の韓国低山歩き(1)	11
雑記帳(96)「不安を受け入れて生きる」	13
スリランカ紹介(71)「民族芸術センター その4」	14
サハ共和国・ヤクーツクだより⑤	16
'わんりい' 活動報告「林敏揚琴リサイタル」	18
20年という歳月を思う	18
'わんりい' 掲示板	20

【10月の定例会と11月号のおたより発送日】

◆定例会：10月10日(木)三輪センター第3会議室  
13:30～

◆11月号のおたより発行日：10月30日(水)  
三輪センター第3会議室 11:00より発送準備

◆紙面の都合で、「漢詩の会」「ボイストレーニング」「無料水墨画体験会」の案内を15ページに掲載しました。